



日本共産党

Japanese Communist Party

はぎわら陽子 木崎としゆき



議会報告 2018年 夏季号

佐倉市議会議員団



佐倉に一番近い原発 東海第2

再稼働に必要な避難計画のため原発事故時に佐倉市は
ひたちなか市民2600人を受け入れる協定を7月24日に締結

茨城県東海第2原発は福島第1原発と同じ沸騰水型軽水炉で、出力110万キロワットの大型原発です。今年11月に運転から40年を迎える老朽原発なのに所有者の日本原子力発電(株)が昨年11月に20年の運転延長と再稼働を申請しました。

2011年の東日本大震災の津波で非常用電源が停止した被災原発の再稼働に、原子力規制委員会はなんと7月に適合判断を出しました。

佐倉市の放射能汚染は50倍以上の可能性

福島第1原発の事故で佐倉市は放射能被害を受け、安全な水の確保が迫られました。今もまだ子どもたちの安全のため、学校・幼稚園・保育園等の放射線量の測定を続けており、給食食材の測定も行っています。

佐倉から100キロ圏にあり、福島第1原発より120キロも近い東海第2原発の事故では、風向きにより福島事故の50～100倍の被災が想定されています。

茨城県内では市民が反対

茨城県では6～7割の自治体で再稼働反対の決議や意見書が採択されています。

原発事故でふるさとや仕事を失い、家族がバラバラになった福島の姿を知っていれば当然です。

再稼働は電力企業の都合であり、県民・住民の命とくらしを保障できないことは明らかで、再稼働反対の住民運動が起きています。



再稼働の中止こそ

市長は「今回の避難計画は国や県の方針に基づいたもので、震災が発生しないことを願うが、避難民が発生したときには温かく迎えることが人道に添うもの」と言い、佐倉市が被災することを全く考えていません

首都圏にある唯一の原発周辺には、避難計画が必要な半径30キロ圏内に96万人が住んでいます。

避難民を受け入れるより、避難民を生み出さない安全なエネルギー政策で、千葉県内の自治体が一致協力して再稼働の中止を国に求めることが真の人道に添う道です。

それでこそ佐倉市民の安全も守れます。



7月から公民館有料化 再検討は必至

大きな金額ではないので
ご理解は得られると考える

有料化が始まる7月を前に、市民から『有料化延期・再検討』を求める陳情が出されました。誰でも公平・自由に安心して利用できる公民館を求める願いを託したものです。

日本共産党市議団は陳情に賛成しましたが、さくら会・公明党・会派のぞみ他が反対し、残念ながら不採択となりました。

教育施設に受益者負担を適用？

公民館は市民の学びの場・地域作りの拠点であり、教育施設として法に基づき今までどおり誰もが利用できる場所であるべきです。

受益者負担の考え方は当てはまりません。

有料化で45%も市民の利用が減ると予測しているのは市です。480億円規模の佐倉市財政に公民館使用料1千万円の収入は「即時必要ではない」とも認めています。

市民の願いを受け止めない姿勢は、文化を掲げる佐倉市の評価をおとしめ、選ばれるまちづくりにも逆行するものです。

市民の合意なしに市政運営は成り立ちません。市長も教育長も「公民館活動が一層活性化していくよう努める」と口をそろえましたが、7月以降に利用の混乱は必至です。市民の声を聞き、有料化の見直しをすべきです。

『家庭的保育事業の設備及び運営基準を緩和する条例』

待機児童の解消をするとして

日本共産党は反対

国は保育にもさまざまな規制緩和策を持ち込んでいます



子どもの安全
健康を最優先に

保育士不足を施設間の職員連携で補えるようにする代替保育ですが、ゆとりのない小規模保育所を連携先として認める緩和では、職員体制の不足を補える保障はなく、保育者の不安定な交代は子どもにとって望ましくありません。

● 幼児期に大事なものは安定した保育者との関係です。

給食については自園調理を原則としながら外部搬入を認めていましたが、設置から5年以内に自園調理に移行する基準を10年以内へと緩和する変更は、業者の都合を優先し、幼児にとっての食の安全を軽視するものです。

食育を進めてきた市の方針にも反します。何より子どもたちの育つ条件を悪くする条例は許されません。

● 食の安全は命と健康に関わる重要事項です。

無料 法律・生活相談会

7月21日(土)／8月18日(土)

午前10時より ひだまり(京成佐倉駅北口)

弁護士が同席します

萩原陽子・木崎俊行へ電話でご予約ください

▶学校のプールをなくし、岩名・上座の市民プールを児童生徒の水泳学習と市民が利用できる温水プールとして建て替えるなどの研究費用が予算計上されました。

「働き方改革」を後押し!?

見せかけの税制改革 弱者切り捨て条例案

市は、給与所得や公的年金控除から基礎控除へ10万円振り替えることで、一般労働者は影響なく、自営業者が減税となる多様な働き方を応援する「働き改革」を後押しする条例改正だと説明しました。

これと同時に行われる自営業者の青色申告特別控除65万円は、期限内の電子申告ができないと55万円に引き下げられます。減税にならないだけでなく、事業主間の格差を拡大し、小売店舗の経営を圧迫するのは目に見えており、認めることはできません。

日本共産党は
反対



その事実確認を求める木崎委員の質問に対しては、重要な資料や地域経済への配慮を示すことなく、税務部は「わかりません」との答弁に終始しました。

固定資産税の改正案では、メガソーラーなどの再生可能エネルギー設備（自家消費型）への増税案を、さくら会・公明党・のぞみ等の賛成多数で可決しています。

安倍暴走政治をそのまま受け入れる国言いなりの市政・議会でいいのでしょうか。

市民と野党の共闘で、住民の声で動く佐倉市政・佐倉市議会が必要です。

森友・加計疑惑、日報隠蔽、データねつ造…

徹底究明を!

市議団が意見書提出 『公文書の隠蔽・改ざん事案の真相究明を求める』

政府は、森友学園への国有地売却に関する公文書の隠蔽・改ざんの事実を認め、「働き方改革関連法案」に関する調査・データのねつ造も明らかになりました。また、防衛省による日報隠蔽問題など、一連の公文書隠蔽・改ざんは、民主主義そのものを根底から揺るがす、あってはならない異常事態と言うべきものです。

日本共産党市議団は、速やかに事実関係を究明し、二度とこうした事態が起きない対策を講ずるよう求める意見書を提出しました。

しかしこの意見書は、さくら会・公明党・のぞみ他の反対で採択されませんでした。

その際、反対する議員は誰ひとりとしてその理由を述べることなく否決したのです。

日本共産党市議団は、他会派の提出する発議案であっても、よいものには賛成し、反対するときには理由をしっかりと表明しています。反対、賛成の理由を言えない議員でいいのでしょうか。

大阪北部地震でブロック塀が倒壊し、学童が犠牲となる痛ましい事故が発生しました。

事故があったことを受け、市議団は教育施設を含め市内にあるブロック塀の調査と

安全対策を施すよう求めました。

市議団の提案が実り、議会最終日に緊急対策についての報告がなされました。

さらに防災も含めたいっそうの安全対策を強化するよう求めています。

生活保護は人としての権利 ひとりで悩み込まずに申請を！

安倍政権は、低所得者に合わせるとして、生活保護費の5%削減を決めました。専門家からは「絶対的な水準を割る」と懸念されています。これに対し政府は「今後検討する」「決めてから検討する」という暴走政治そのものの答え方です。

日本共産党は、市議会でもこのことを厳しく糾弾し、権利としての生活保護の現状確認と改善を強く求めました。

こんなにある生保で可能な条件と対応

- ①エアコンや携帯電話の保有は【可】
- ②学資保険や生命保険の保有は【条件により可】
- ③所有住宅への引き続きの居住は【条件により可】
- ④自立へ向けた高校生のアルバイトは【可】

市議団の求めに、市は『生活保護のしおり』にこれらを明記すること、そしてさらなる改善も約束しました。

申請時の所持金規定はなく、扶養義務者へ一律に扶養を求めることもありません。市役所閉庁時でも代表電話から担当者へつながり申請できます。

請 願

被爆国としての責任を果たすことを強く求める

今こそ核兵器禁止条約にサインを！ 北朝鮮情勢急転

歴史的な米朝首脳会談が実現して軍事によらない平和と対話への道が広がった今こそ、日本政府が核兵器禁止条約へ署名、批准することが求められます。

「北朝鮮脅威論」を振りかざし、軍事的圧力一辺倒だった安倍政権は大反省すべきです。

核があるから平和が維持されるという「核抑止論」の主張は、「万が一の使用可能性」が佐倉市以外であって欲しいと言うに等しい身勝手な考えだと共産党は熱く訴え、平和条約を持つ佐倉市が条約批准へ向けた大きな世論を築く先頭に立つことを求めました。

平和を求める市民の願いは、さくら会・公明党・のぞみ他が反対理由を一切述べることなく、討論もしないまま否決されてしまいました。

意見書

木更津にオスプレイ配備をやめるよう求める

佐倉の上空を飛び回る恐れ

市議団が提出



横田基地へオスプレイ5機が突然飛来し、住民を驚愕させました。日本政府は米軍からの要請で事前公表をしていませんでした。



すべて米軍言いなりで、情報の隠蔽も辞さない日本政府の「オスプレイを自衛隊木更津駐屯地に暫定配備する」との報道に、千葉県全体に不安が広がっています。各地で墜落・不時着事故頻発のオスプレイが、佐倉市上空を飛び回るなど、絶対に許せません。

